

知床の窓から見えるもの

2019年7月1日(月曜日)



らうす診療所には、父の木島敏明が一昨年の半ばまで数年間月1回の循環器科診療で伺っておりましたが、急病で来られなくなった後に代理で半年ほど私がお世話になる機会をいただきました。その後札幌で勤務している間に、らうす診療所の常勤医がいなくなってしまったとお聞き、もともと僻地で役に立てる医師になることを目標としてこれまで励んできたので、このたび、らうす診療所でお世話になることにさせていただきました。

羅臼町は知床の自然に恵まれた素晴らしい所ではありますが、都市圏から遠距離で大病院にかかるのに時間がかかるという不利があります。こうした場所で生活していく中で最も重要なのは、単純に大病を早期発見するというだけでなく、それ以前になるべく大病にかからないような生活習慣を身につけて、高齢になっても生活習慣病を発症しないようにすることではないかと考えます。そのような健康づくりのお手伝いにも関わっていきたいと思います。

また、羅臼町に唯一の医療機関であるため、あらゆる医療問題の初期対応を行うのがらうす診療所の使命だと考えています。コンビニエンスストアであれば、それがどこにあっても、一定の商品やサービスを得られると期待して私たちはお店に入りますが、それと同様に、医療機関に期待される基本的なサービスを提供できるよう努めて参ります。